

Asia Indicators

発表日: 2025年10月3日(金)

韓国・9月輸出は幅広い分野で底入れを確認(Asia Weekly(9/29~10/3))

～インドネシア・9月インフレは中銀目標に留まるも、徐々に加速する動きが確認される～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/30(火)	(韓国)8月鉱工業生産(前年比)	+0.9%	+1.3%	+5.0%
	(フィリピン)8月輸出(前年比)	+4.6%	--	+17.6%
	8月輸入(前年比)	▲4.9%	--	+5.8%
	(中国)9月製造業PMI	49.8	49.6	49.4
	9月非製造業PMI	50.0	--	50.3
	9月S&P製造業PMI	51.2	--	50.5
	9月S&Pサービス業PMI	52.9	--	53.0
	(オーストラリア)金融政策委員会(政策金利)	3.60%	3.60%	3.60%
10/1(水)	(韓国)9月輸出(前年比)	+12.7%	+7.2%	+1.2%
	9月輸入(前年比)	+8.2%	+5.6%	▲4.1%
	(インドネシア)9月消費者物価(前年比)	+2.65%	+2.50%	+2.31%
	8月輸出(前年比)	+5.78%	+5.50%	+9.86%
	8月輸入(前年比)	▲6.56%	▲1.60%	▲5.86%
	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	5.50%	5.50%	5.50%
10/2(木)	(韓国)9月消費者物価(前年比)	+2.1%	+2.0%	+1.7%
10/3(金)	(シンガポール)8月小売売上高(前年比)	+5.2%	--	+4.6%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～連休のズレを考慮する必要はあるものの、9月の輸出額は幅広く底入れの動きを強めている模様～

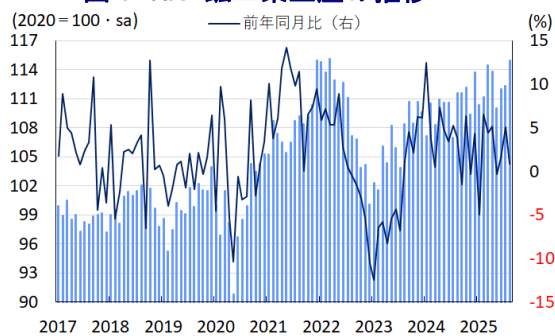
先月30日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+0.9%となり、前月(同+5.0%)から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+2.4%と前月(同+0.3%)から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。分野別では、鉱業部門の生産は底入れの動きに一服感が出る一方、製造業で持ち直しの動きが鮮明になっており、トランプ関税の本格発動を前にした輸出の駆け込みの動きを反映して、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、前月に下振れした自動車をはじめとする輸送用機械関連や電気機械関連、縫製品関連などで生産が持ち直しの動きをみせたことも生産全体を押し上げている。

1日に発表された9月の輸出額は前年同月比+12.7%となり、前月(同+1.2%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動き

をみせるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。今年は秋夕(チュソク)の連休が10月にずれ込んでおり、営業日数が多いことを考慮する必要があるものの、主力の輸出財である半導体の輸出が旺盛な推移をみせているほか、自動車や船舶、機械関連の輸出も堅調な動きをみせる一方、石油化学製品や鉄鋼製品などは弱含む対照的な動きをみせている。国・地域別でも、トランプ関税の影響を受ける形で米国向けは頭打ちしているものの、最大の輸出相手である中国向けは底堅い動きをみせているほか、ASEANなどアジア新興国向け、日本向け、欧州向けの堅調さが輸出全体を下支えしている。一方の輸入額も前年同月比+8.2%となり、前月(同▲4.1%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど頭打ちが続いた流れが変化しているほか、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出同様に底入れの動きを強めている。輸出の堅調さを反映して素材、部材などに対する需要が押し上げられたことが影響している。結果、貿易収支は+95.57億ドルと前月(+65.12億ドル)から黒字幅が拡大している。

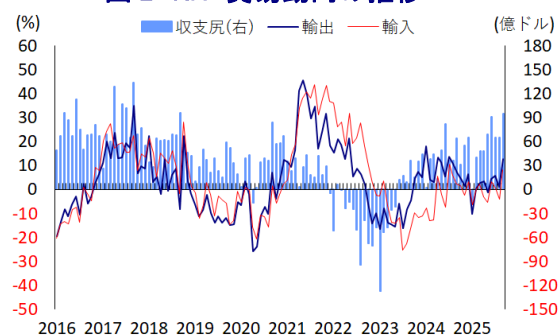
2日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+2.1%となり、前月(同+1.7%)から加速して2ヶ月ぶりに中銀が定める目標(2%)を上回る伸びとなっている。前月比は+0.52%と前月(同▲0.06%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、生鮮品や穀物など食料品価格の上昇の動きに一服感が出ているものの、ガソリン価格は下落基調が続く一方、電力料金の改定などを反映してエネルギー価格は押し上げられており、生活必需品の物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.0%となり、前月(同+1.3%)から伸びが加速している。前月比も+0.46%と前月(同▲0.56%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、ガソリン価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かるなかで幅広く財価格は落ち着いた推移をみせる一方、一部のサービス物価が上振れする動きをみせていることが物価全体を押し上げている。

図1 KR 鉱工業生産の推移



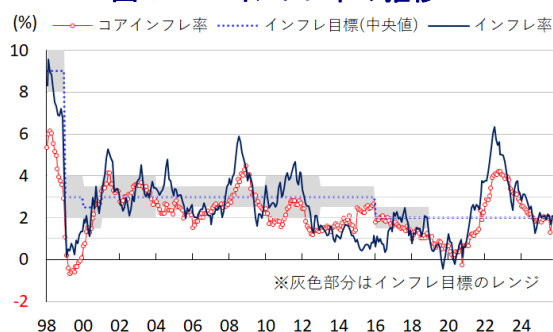
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 KR 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 KR インフレ率の推移



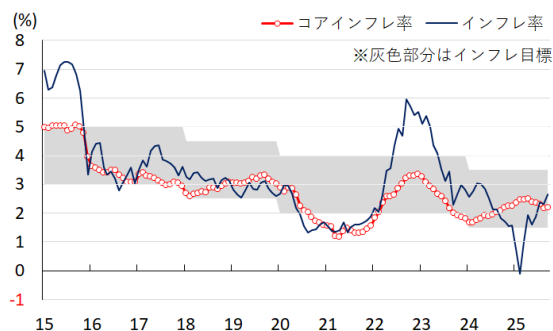
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～9月インフレ率は中銀目標域内に留まるも、サービス物価を中心に上昇圧力が強まる兆し～

1日に発表された9月の輸出額は前年同月比+2.65%となり、引き続き中銀目標(2.5±1%)の域内で推移しているものの、前月(同+2.31%)から加速して16ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.21%と前月(同▲0.08%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油価格の頭打ちが続いていることを受けてエネルギー価格は下落基調が続いている一方、生鮮品や穀物をはじめとする食料品価格は上昇の動きを強めており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.19%となり、前月(同+2.17%)からわずかに伸びが加速している。前月比も+0.18%と前月(同+0.06%)から上昇ペースは加速しており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かるなかで幅広く財価格は落ち着いた推移をみせる一方、サービス物価を中心に上昇圧力がくすぶる動きがみられる。

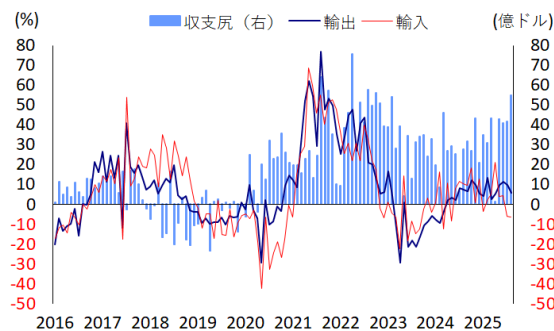
また、同日に発表された8月の輸出額は前年同月比+5.78%となり、前月(同+9.86%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。種類別では、原油や天然ガス関連のほか、鉱物資源関連、農産品関連などの輸出は堅調な動きをみせる一方、製造業関連の輸出の鈍化が輸出全体の重石となっており、トランプ関税の本格発動を前にした駆け込みの動きが一巡していることが影響している。一方の輸入額は前年同月比▲6.56%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲5.86%)からマイナス幅は拡大している。前月比も4ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。原油や天然ガス関連の輸入に底堅さがみられるものの、これら以外の輸入が下振れしており、先行きの輸出の不透明感の高まりが素材や部材などの輸入の重石となっている様子が見える。結果、貿易収支は+54.88億ドルと前月(+41.74億ドル)から黒字幅が拡大している。

図4 ID インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 ID 貿易動向の推移

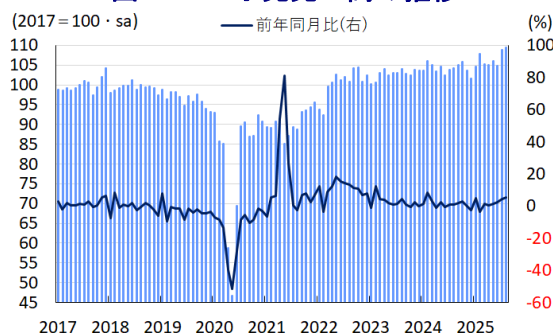


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]~8月小売売上高は自動車で減少も、日用品や高額品、娯楽関連などで幅広く拡大を確認～

3日に発表された8月の小売売上高は前年同月比+5.2%となり、前月(同+4.6%)から伸びが加速している。前月比は+0.50%と前月(同+3.88%)からペースは鈍化するも2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。なお、同国では月ごとの自動車売上高が上下に振れるとともに、小売全体の動向を左右するなか、当月は前月比▲4.40%と前月(同+5.53%)から2ヶ月ぶりの減少に転じている。よって、自動車を除いたベースでは前月比+1.31%と前月(同+3.62%)から2ヶ月連続で拡大しており、食料品やエネルギーなど生活必需品に対する需要は下振れしているほか、前月に大きく拡大したコンピュータ・通信機器関連も減少に転じているものの、日用品関連や宝飾品など高額品関連のほか、娯楽関連の需要も拡大する動きがみられる。インフレ鈍化による実質購買力の押し上げも追い風に、家計消費が下支えされている様子が見える。

図6 SG 小売売上高の推移



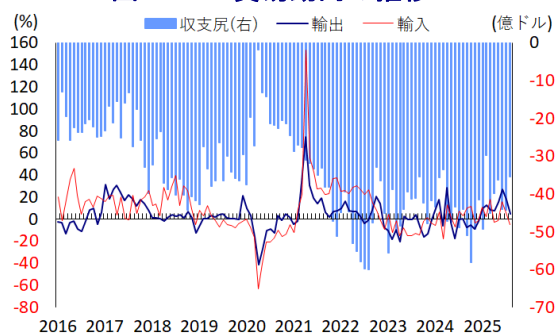
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン]~8月輸出はトランプ関税の本格発動を前にした駆け込み一巡を受け頭打ちの動きを強める～

先月30日に発表された8月の輸出額は前年同月比+4.6%となり、前月(同+17.6%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、鉱物資源関連、植物をはじめとする食料品関連など幅広く下振れしている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けに底堅い動きがみられるものの、トランプ関税の本格発動を前にした駆け込みの動きが一巡して米国向けが鈍化しているほか、ASEANなど周辺国向け、日本向け、欧州向けなど幅広い国・地域向けの輸出も頭打ちの動

きを強めている。一方の輸入額は前年同月比▲4.9%となり、前月（同+5.8%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じたと試算されるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。輸出の先行きに不透明感が高まっていることを反映して、素材や部材などに対する需要に下押し圧力が掛かったことが輸入全体の重石となっている。結果、貿易収支は▲35.41億ドルと前月（▲44.23億ドル）から赤字幅が縮小している。

図7 PH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。